

信州大学教育学部附属長野中学校
オンライン交流会2023



私たちと一緒に語りませんか？

参加
無料

2023.12/11 (月) 16:30~
17:30

本日は

信州大学教育学部附属長野中学校

オンライン交流会2023に

ご参加いただき

誠にありがとうございます

《参加者の皆様へのお願い》

- ・表示名を右のように変更をお願いします
(ブレイクアウトルームの割り振りに使用します)
- ・画面の写真撮影・スクリーンショットや
録音・録画はご遠慮ください
- ・交流会中は、ビデオはON、
マイクは発言時以外ミュートでお願いします

【表示名の例】

A X 信州太郎 (附属長野中)

↑
お名前
所属校名
【第1部】参加希望ブレイクアウトルーム
【第2部】参加希望ブレイクアウトルーム

《 本日の日程 および ブレイクアウトルーム一覧 》

【第1部】各教科の授業や評価の工夫 16:30～17:00

A：国語 B：社会 C：数学 D：理科 E：音楽 F：美術 G：保体 H：技家 I：英語 J：道徳

【第2部】県外の附属学校等の取組紹介 17:00～17:30

W：教育課題・カリキュラム開発

(報告予定) 宇都宮大学附属中、大阪教育大学附属池田中、京都大学大学院全国スクールリーダー教育研修、三重大学附属中

X：教科研究（国英体家）

(報告予定) 茨城大学附属中、三重大学附属中、岐阜市立長良中、東京大学教育学部附属中等教育、上越教育大学附属中、広島大学附属三原学校園

Y：教科研究（理数体）

(報告予定) 上越教育大学附属中、新潟大学附属新潟中、三重大学附属中、秋田大学附属中、東京大学教育学部附属中、山梨大学教育学部附属中、宮城教育大学附属中、愛知教育大学附属岡崎中

Z：STEAM教育

(報告予定) 学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）サマーキャンプ、大阪大学附属天王寺中学校

《参加者の皆様へのお願い》

- ・表示名を右のように変更をお願いします
(ブレイクアウトルームの割り振りに使用します)
- ・画面の写真撮影・スクリーンショットや録音・録画はご遠慮ください
- ・交流会中は、ビデオはON、マイクは発言時以外ミュートでお願いします

【表示名の例】

A X 信州太郎 (附属長野中)

↑
お名前 所属校名
【第1部】参加希望ブレイクアウトルーム
【第2部】参加希望ブレイクアウトルーム

附属長野中学校の評価について

R5.12.11 信大附属長野中学校オンライン交流会2023

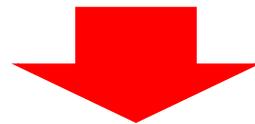
本日は、時間の都合上、要点のみをご説明します。
本日の資料は、後日HPに掲載しますので、説明をお聞きになった上で、資料をご覧いただければと思います。
また、ご不明点等はこの後の**ブレイクアウトルーム**にてご相談ください。

学習評価の目的

- ◆ 児童生徒自身が、自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすること
- ◆ 教師が、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、自身の指導の改善を図ること

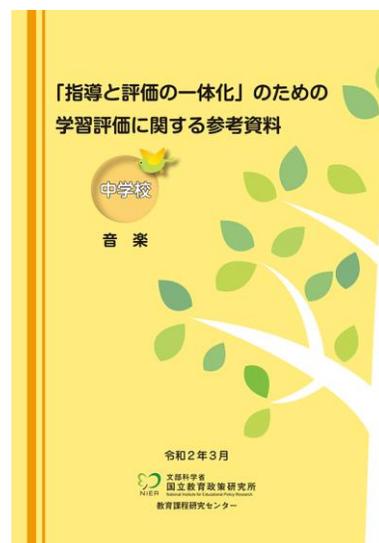
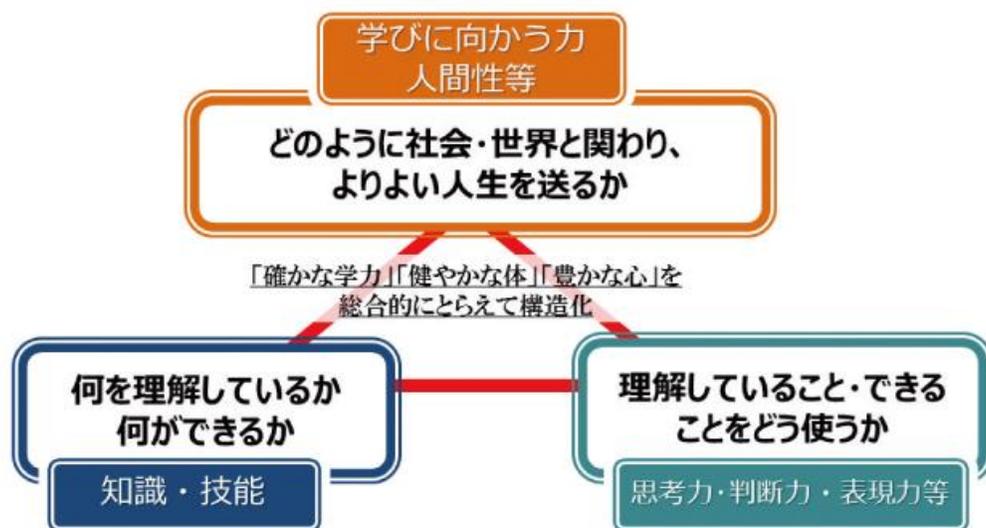


教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進める



指導と評価の一体化を図る

通知表の目的（指導と評価の一体化）



「知識・技能」の評価の方法

「知識・技能」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。

「思考・判断・表現」の評価の方法

「思考・判断・表現」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「思考・判断・表現」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたりと、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

通知表の目的（指導と評価）

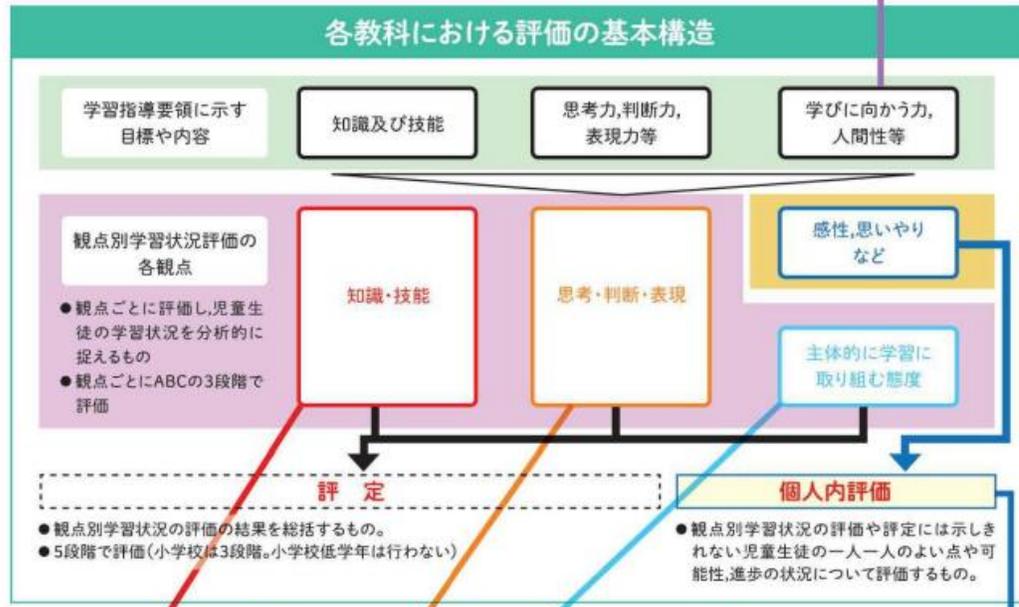
主体的に学習に取り組む態度

「自己調整」 + 「粘り強い取組」

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されています。

「学びに向かう力、人間性等」には
①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

各教科における評価の基本構造



各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力,判断力,表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

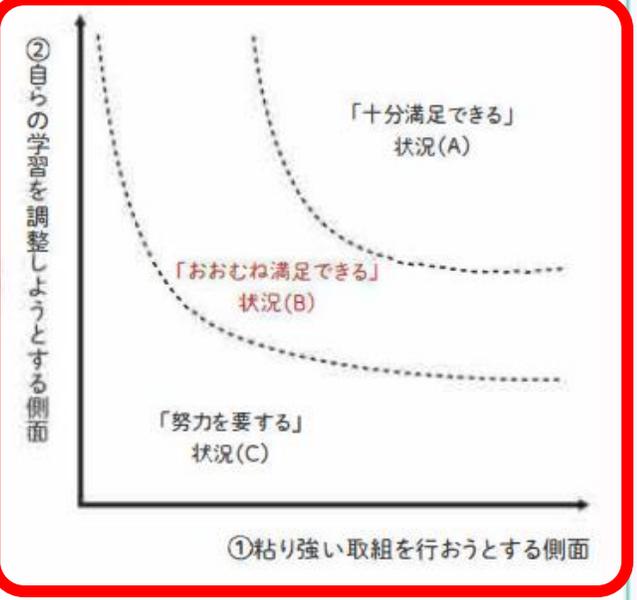
知識及び技能を獲得したり,思考力,判断力,表現力等を身に付けたりするために,自らの学習状況を把握し,学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら,学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

個人内評価の対象となるものについては,児童生徒が学習したことの意味や価値を実感できるよう,日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要です。特に,「学びに向かう力,人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性,進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに、次のように区別して評価を記入する。

A : 「十分満足できる」

B : 「おおむね満足できる」

C : 「努力を要する」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

II 評定

各教科の評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、次のように区別して評価を記入する。

5 : 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」

4 : 「十分満足できる」

3 : 「おおむね満足できる」

2 : 「努力を要する」

1 : 「一層努力を要する」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

評価・評定の算出方法

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに、次のように区別して評価を記入する。

A：「十分満足できる」

B：「おおむね満足できる」

C：「努力を要する」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

評価物の例（本校数学科の場合）

【評価物】	知	思	主
定期テスト	◎	○	—
レポート課題	○	○	○
単元の振り返り	○	○	○
授業の振り返り 授業の行動観察	○	◎	◎

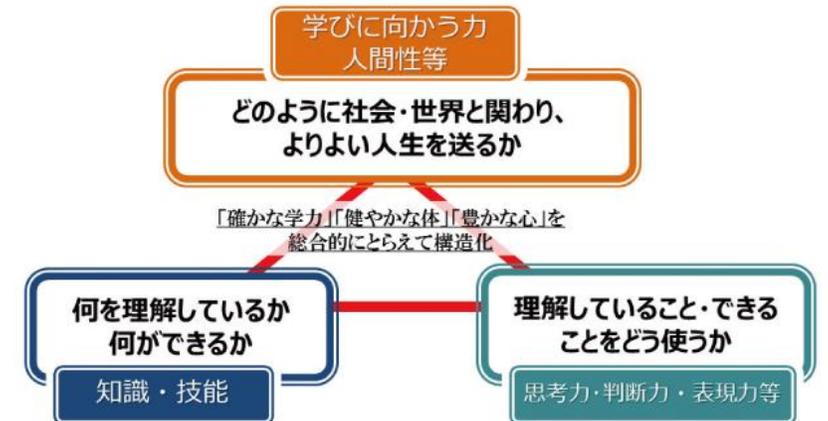
3 観点の割合は全て同じである必要がある（1：1：1）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の割合	約33%	約33%	約33%

評価・評定の算出方法

◆ 本校は、全教科のA B Cの配列を下記のように統一

評定	評価（3観点）	配列パターンの例
5	Aが3つ	AAA
4	AとBのみ	AAB,ABA,BAA,ABB,BAB,BBA
3	Bが3つ	BBB
2	BとCのみ	BBC,BCB,CBB,BCC,CBC,CCB
1	Cが3つ	CCC



附属長野中の学習支援の方向性

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに、次のように区別して評価を記入する。

A : 「十分満足できる」

 B : 「おおむね満足できる」

C : 「努力を要する」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

II 評定

各教科の評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、次のように区別して評価を記入する。

5 : 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」

4 : 「十分満足できる」

 3 : 「おおむね満足できる」

2 : 「努力を要する」

1 : 「一層努力を要する」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

附属長野中の学習支援の方向性

◆ 本校は、全教科のA B Cの配列を下記のように統一

評定	評価（3観点）	配列パターンの例
5	Aが3つ	AAA
4	AとBのみ	AAB, ABA, BAA, ABB, BAB, BBA
3	Bが3つ	BBB
2	BとCのみ	BBC, BCB, CBB, BCC, CBC, CCB
1	Cが3つ	CCC

全生徒が「BBB：3」以上になることを



目指した学習支援を行う

(清明塾・学習相談など)

通知表に添付する「各教科の評価の観点

とその趣旨」がB評価の基準となる（絶対評価で評価・評定を算出）

附属長野中の研究・評価について

R5.12.11 信大附属長野中学校オンライン交流会2023

本日は、時間の都合上、要点のみをご説明します。
本日の資料は、後日HPに掲載しますので、説明をお聞きになった上で、資料をご覧いただければと思います。
また、ご不明点等はこの後の**ブレイクアウトルーム**にてご相談ください。

《 本日の日程 および ブレイクアウトルーム一覧 》

【第1部】各教科の授業や評価の工夫 16:30～17:00

A：国語 B：社会 C：数学 D：理科 E：音楽 F：美術 G：保体 H：技家 I：英語 J：道徳

【第2部】県外の附属学校等の取組紹介 17:00～17:30

W：教育課題・カリキュラム開発

(報告予定) 宇都宮大学附属中、大阪教育大学附属池田中、京都大学大学院全国スクールリーダー教育研修、三重大学附属中

X：教科研究（国英体家）

(報告予定) 茨城大学附属中、三重大学附属中、岐阜市立長良中、東京大学教育学部附属中等教育、上越教育大学附属中、広島大学附属三原学校園

Y：教科研究（理数体）

(報告予定) 上越教育大学附属中、新潟大学附属新潟中、三重大学附属中、秋田大学附属中、東京大学教育学部附属中、山梨大学教育学部附属中、宮城教育大学附属中、愛知教育大学附属岡崎中

Z：STEAM教育

(報告予定) 学びのイノベーション・プラットフォーム (PLIJ) サマーキャンプ、大阪大学附属天王寺中学校

《参加者の皆様へのお願い》

- ・表示名を右のように変更をお願いします
(ブレイクアウトルームの割り振りに使用します)
- ・画面の写真撮影・スクリーンショットや録音・録画はご遠慮ください
- ・交流会中は、ビデオはON、マイクは発言時以外ミュートでお願いします

【表示名の例】

A X 信州太郎 (附属長野中)

↑
お名前 所属校名
【第1部】参加希望ブレイクアウトルーム
【第2部】参加希望ブレイクアウトルーム

附属長野中学校の研究の紹介

R5.12.11 信大附属長野中学校オンライン交流会2023

本日は、時間の都合上、要点のみをご説明します。

本日の資料は、後日HPに掲載しますので、説明をお聞きになった上で、資料をご覧いただければと思います。

また、ご不明点等はこの後の**ブレイクアウトルーム**にてご相談ください。

学校についての紹介

学校名 信州大学教育学部附属長野中学校【長野県】

研究主題 「キャリア×STEAM」の学習による、
新たな価値を創造できる資質・能力の育成（1年次）

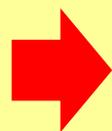
研究テーマの具現に迫るための「三つのアプローチ」

I：教科・アプローチ
（学習指導要領の具現）

II：プル・アプローチ
（教科横断型の学習）

III：プッシュ・アプローチ
（社会参画型の学習）

本校の
研究の
特色



研究の重点1（【教科等の本質】に迫るために）

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする

I：教科・アプローチ 各教科等の授業

学習指導要領の具現を目指した学習（実生活・実社会の諸課題の解決につながる学習）

II：プル・アプローチ <新設領域>あさひのユニット【教科横断型の授業】

複数教科が教科の枠にとられない学習（実生活・実社会の諸課題の解決をする学習）

研究の重点2（【学びの本質】に迫るために）

現代的な諸課題に向かう中で、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようにする

III：プッシュ・アプローチ あさひのプロジェクト【社会参画型の授業】

地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学習

【内容】 地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学びを実践
(例) 電車利用者を増やすために無人駅をデザインする

- ・ 生徒の追究テーマを基に、チームに分かれた活動を実施
→ 【令和5年度】 3年生のみの活動、12月に2年生へ引き継ぎ
成果発表会の実施（8・12・2月の年3回を予定）
→ 【令和6年度以降】 異学年の縦割りによる活動を実施予定
- ・ 外部の企業などと連携した活動の充実
→ 校外学習の機会が多くなる（オンラインによる活動も含む）
- ・ 活動時間確保のために「探究の日」を設定 ※弁当持参
(5/31, 6/21, 9/6, 9/20, 11/1, 11/22, 12/13, 1/24 計8回を予定)

あさひのプロジェクトの運営計画

	令和5年度			令和6年度		令和7年度	
	4～8月	9～12月	1～3月	4～12月	1～3月	4～12月	1～3月
令和3年度 入学生	3年生 チーム立ち上げ・活動		3年生 活動終了 (引き継ぎ)				
令和4年度 入学生	2年生 探究活動の 基礎を学ぶ	2年生 3年生の 活動に合流	2年生 活動チーム の精選	3年生 チーム立ち 上げ・活動	3年生 活動終了 (引き継ぎ)		
令和5年度 入学生	1年生 探究活動の基礎を学ぶ (身近な社会に貢献する)			2年生 チーム立ち 上げ・活動	2年生 活動チーム の精選	3年生 チーム立ち 上げ・活動	3年生 活動終了 (引き継ぎ)
令和6年度 入学生	立ち上げた活動が 後輩たちに引き継がれ 次年度以降も継続する			1年生 探究活動の基礎を学ぶ (身近な社会に貢献する)		2年生 チーム立ち 上げ・活動	2年生 活動チーム の精選
令和7年度 入学生				1年生 探究活動の基礎を学ぶ (身近な社会に貢献する)			

3つのアプローチの位置付け

I：教科・アプローチ 各教科等の授業

学習指導要領の具現を目指した学習
 (実生活・実社会の諸課題の解決につながる学習)

- ・各教科等の資質・能力の育成
- ・新たな価値を創造できる資質・能力の育成
- ・実生活・実社会の諸課題の解決に向かう素地づくり



II：プル・アプローチ ＜新設領域＞

あさひのユニット【教科横断型の授業】
 複数教科が教科の枠にとらわれない学習
 (実生活・実社会の諸課題の解決をする学習)

- ・新たな価値を創造できる資質・能力の育成
- ・実生活・実社会の諸課題を解決する学習
- ・教科横断的な視点を引き出す
 (実生活・実社会の諸課題を見だし、
 解決に向かう素地づくり)



III：プッシュ・アプローチ

あさひのプロジェクト【社会参画型の授業】

地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学習

【内容】 1つのテーマに関する授業を実施

【テーマ】 **新型コロナウイルスと人類**

【対象学級】 3学年（A～E組）

【実施時期】

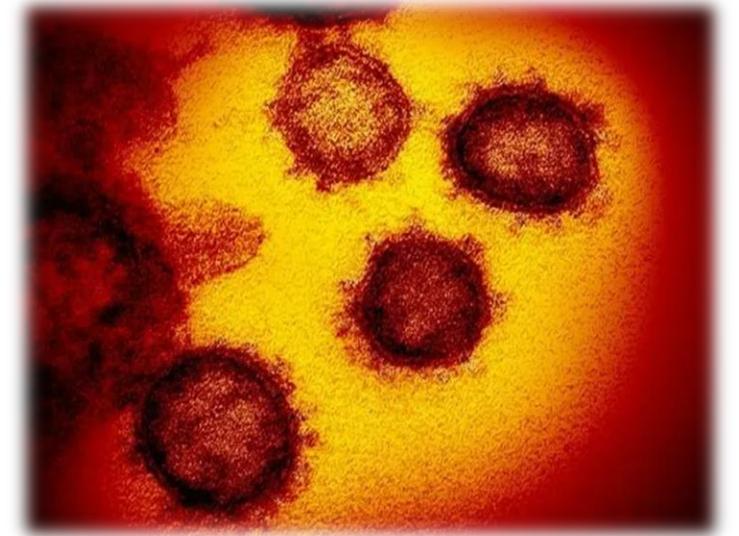
5 / 16（水） テーマに対する問いを決め出す

5 / 17（木）～30（木） 各教科でテーマに関する授業を実施

5 / 31（水） テーマに対する問いの答えをまとめる

【評価】 Classroomで配付されたスライドを編集する

完成したスライドを課題として提出する（6 / 2まで）



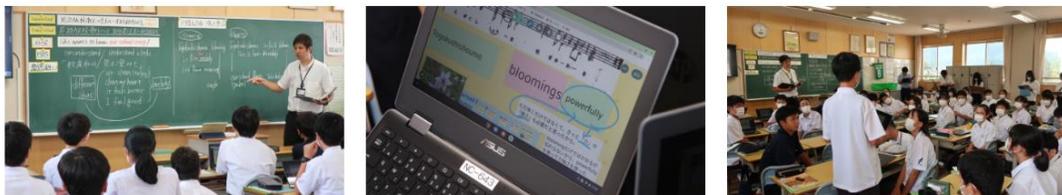
【教科横断型】あさひのユニット（5月）実施内容

国語	「私とコロナウィルス」に対する自分の思いを表現する	音楽	コロナ禍に生まれた曲に出会い、それぞれのよさを聴き深める
社会	新型コロナウイルスがもたらしたものは何か考える	美術	感染症対策のピクトグラムのデザインを検証する
数学	5類に移行する日が妥当だったかどうか考える	保体	コロナ禍の運動不足で増加した子どものけがを防止するためにできることについて考える
理科	効率のよい換気の方法について考える	家庭	模擬家族に提案する住宅の工夫について感染予防の視点で再検討する
英語	"What do you think about wearing masks?"という問いに向けて、自分の考えを伝え合う	技術	どのような計測・制御システムがあるかとアフターコロナ時代を安心・安全に過ごすことができるかを考える

令和5年度 公開授業（秋の公開）の様子

【英語科】 教科学習 I：教科・アプローチ

単元名：ALTと一緒に歌うために、英語版校歌をつくろう



【数学科】 教科学習 I：教科・アプローチ

単元名：附属長野中学校のAEDの最適な設置場所は？



【社会科・家庭科】 あさひのユニット II：プル・アプローチ

単元名：南堀地区の方と協働して、地域の課題を解決しよう



【技術科・特別活動】 あさひのユニット II：プル・アプローチ

題材名：どうする！？2030年の生活



【総合】 あさひのプロジェクト III：プッシュ・アプローチ

単元名：社会の中で生きる私



本校の公開授業の学習指導案
や授業の様子等は、[本校HP](#)
からご参照ください

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/naga-chu/news/import/post-83.html>

I：教科・アプローチ 各教科等の授業

学習指導要領の具現を目指した学習
(実生活・実社会の諸課題の解決につながる学習)

全教科から時数を抽出

【5時間 or 8時間 (スライド2周分)】

国語・社会・数学・理科・保体・技家(1・2年)・英語

【1時間 (スライド1周分)】音楽・美術・技家(3年)

【10時間】総合(2・3年)

II：プル・アプローチ ＜新設領域＞

あさひのユニット【教科横断型の授業】

複数教科が教科の枠にとらわれない学習
(実生活・実社会の諸課題の解決をする学習)

あさひのユニットの運用

【時数】1学年：45時間 2～3学年：55時間

【内容】①共通テーマによる学習(2～3年)

②「あさひのプロジェクト」に必要な学習

・「社会人基礎力」について

・質問力、プレゼン力について

・ビジネスマナーについて

など

III：プッシュ・アプローチ

あさひのプロジェクト【社会参画型の授業】

地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学習

令和6年度の研究（二年次）に向けて

「キャリア×STEAM」の学習を具現するカリキュラムの開発

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
成果発表会 実践交流会	チーム分け (2・3年)			成果発表会 ① (中間発表)				実践交流会 (ワークショップ)	成果発表会 ② (最終発表)		成果発表会 ③ (次年度の見直し)	チーム提案 (1・2年)
3学年 あさひのユニット 【計55時間】 あさひのプロジェクト 【計60時間】	テーマ学習 【25時間】		プル・アプローチによる学習【20時間】									
	社会人基礎力、質問力・プレゼンカ、ビジネスマナーに関する講座【10時間】											
	これからの社会を生きる私【60時間】											
2学年 あさひのユニット 【計55時間】 あさひのプロジェクト 【計60時間】			14歳の問い 【10時間】	プル・アプローチによる学習【10時間】				テーマ学習 【25時間】				
	社会人基礎力、質問力・プレゼンカ、ビジネスマナーに関する講座【10時間】											
	これからの社会を生きる私【60時間】											
1学年 あさひのユニット 【計45時間】 あさひのプロジェクト 【計50時間】				プル・アプローチによる学習【25時間】								
	社会人基礎力、質問力・プレゼンカ、ビジネスマナーに関する講座【20時間】											
	10年後の社会に向けて【20時間】				持続可能な社会の実現に向けて【30時間】							

附属長野中学校の研究の紹介

R5.12.11 信大附属長野中学校オンライン交流会2023

本日は、時間の都合上、要点のみをご説明します。

本日の資料は、後日HPに掲載しますので、説明をお聞きになった上で、資料をご覧いただければと思います。

また、ご不明点等はこの後の**ブレイクアウトルーム**にてご相談ください。

《 本日の日程 および ブレイクアウトルーム一覧 》

【第1部】各教科の授業や評価の工夫 16:30～17:00

A：国語 B：社会 C：数学 D：理科 E：音楽 F：美術 G：保体 H：技家 I：英語 J：道徳

【第2部】県外の附属学校等の取組紹介 17:00～17:30

W：教育課題・カリキュラム開発

(報告予定) 宇都宮大学附属中、大阪教育大学附属池田中、京都大学大学院全国スクールリーダー教育研修、三重大学附属中

X：教科研究（国英体家）

(報告予定) 茨城大学附属中、三重大学附属中、岐阜市立長良中、東京大学教育学部附属中等教育、上越教育大学附属中、広島大学附属三原学校園

Y：教科研究（理数体）

(報告予定) 上越教育大学附属中、新潟大学附属新潟中、三重大学附属中、秋田大学附属中、東京大学教育学部附属中、山梨大学教育学部附属中、宮城教育大学附属中、愛知教育大学附属岡崎中

Z：STEAM教育

(報告予定) 学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）サマーキャンプ、大阪大学附属天王寺中学校

《参加者の皆様へのお願い》

- ・表示名を右のように変更をお願いします
(ブレイクアウトルームの割り振りに使用します)
- ・画面の写真撮影・スクリーンショットや録音・録画はご遠慮ください
- ・交流会中は、ビデオはON、マイクは発言時以外ミュートでお願いします

【表示名の例】

A X 信州太郎 (附属長野中)

↑
お名前 所属校名
【第1部】参加希望ブレイクアウトルーム
【第2部】参加希望ブレイクアウトルーム